

京都府立北稜高等学校 2 年生 Furukawa さん

和訳

ビル・ゲイツさんへ

京都府に書籍を寄贈していただきありがとうございます。小説「異星の客」を楽しんで読ませていただきました。社会が作家に与える影響と、作家が社会に与える影響について深く考えさせられました。まず、社会学的背景を考慮せずにこの小説の思想について語ることはできないと感じましたが、SFは現在の社会について再考するために大変役に立ちます。SFは近くて遠い未来への啓発であるとよく言われます。この小説には起こりそうもない出来事とともに、社会と未来についての疑問を投げかけるような出来事が多く描かれています。

まず、この本は現実とかけ離れたファンタジーの物語です。地球人と同じ倫理観を持たない火星人が地球を訪れ、両者の間に対立が生じます。一方、火星である主人公が考える理論は、我々の歴史の中に実在し、今後も生じ続けるであろう過激な考えです。ファンタジーと言われながらも、この小説が現代社会について考えさせられるものである理由のひとつだと思います。

この小説は一見すると、異なる思想を持つ異星人同士の対立を描いているように見えますが、それだけではありません。主人公のマイケル・スミスは大人ですが、子供のようにもあります。彼は地球に生まれた赤ちゃんのようなものです。彼は何年も地球人がいない環境にいたため、何の常識も知りません。知能は高いですが、無知な子供である彼は、大人、つまり大人の地球人が“普通”だと考える倫理観を持っておらず、無邪気で純粋なのです。彼には、地球人が持っている複雑な考えを超越する理論を展開する傾向があります。そのため、彼の思想は大人の地球人の考え方の枠に押しこめられ、地球人は彼の考え方を反逆者の考えだと決めつけようとしています。

加えて、彼はこの物語で“他者”の役割も演じています。異なる環境で育ち、異なる考えを持つ異様な対象としての彼の立場を完全に理解することは難しいです。この物語をどのように読み、どう解釈するかは人それぞれですが、現代社会に生きる一人の人間として、私は風刺として解釈しました。マイケル・スミスの極端でかけ離れた考えが正しいとは思いませんが、意見や考えの弾圧が

噴出している現代では、それらの思想との向き合い方を考えなければなりません。私達と異なる考えを持つ人々との正しい関わり方を考える必要があります。

結論ですが、私はこの小説を通して未来と現代社会について多くのことを考えました。京都府にこの本を寄贈いただき、また、本書の思想について深く考える機会を頂き、本当にありがとうございました。

Furukawa より